

私たちは、広島市の次期最終処分場「恵下埋立地」の整備について、現在の広島市の進め方に不安を感じています。このチラシは、広島市の対応などについて、感じていることを情報発信するチラシです。

恵下埋立地の用地内から基準を大幅に超える高濃度のダイオキシン(土壤環境基準の29倍)と鉛(土壤環境基準の8.2倍)が検出されました。

昨年9月1日には分析結果が出ていたのに、今年1月28日に新聞が報道するまで、表に出ませんでした。(まだ市の環境保全部局からは正式に公表されていません)

ダイオキシン類は、「人の生命及び健康に重大な影響を与える恐れのある物質」(ダイオキシン対策特別措置法第1条)です。他都市では、直ちに公表されていますが、新聞がスプークするまで、一切秘密にされていたと言っても過言ではないと思います。

この時期広島市は、戸山地区の連合会と合意書の締結に向けた協議のさなかであり、交渉が不利になる情報は決して出さないという姿勢が如実に表れた結果ではないでしょうか。

水内地区では連合会の会長のハンコがすわったとたん「地元住民の同意を得た」「連合会としか話をしない」「協議はしない」の一点張りだそうです。広島市の姿勢は、以下の伴地区の「住民の想い」とも重なります。伴の時と変わっていないようです。

第三者の視点必要！

安定的に存在していたダイオキシンが、掘削により攪乱され、水内川→太田川に流れ出す危険が大です。搬出・運搬時の安全対策は重要課題です。

広島市は、本当に信頼していいのでしょうか？都合の悪い情報は隠し、役所都合の施策のみが、振り返られることなく、暴走する恐れはないでしょうか。以下は、伴地区の連合会が、広島市が約束を守らないことに業を煮やして広島市長に出した文書です。(↓情報開示請求で入手)

<中国新聞の報道>

2/7中国新聞→  
**広島市処理に6億円**  
処分場予定地のタイヤ燃え殻  
広島市が佐伯区湯来町で建設中の恵下埋立処分場の敷地から大量の廃タイヤの燃え殻が見つかった問題で、市は6日、処理費が約6億円に膨らむと明らかにした。本年度予算から約2億円を削ぐのに加え、同日、民間施設で無償化して処分する委託費として約4億円を見込んだ。費用の財源は、市債発行収入を中心に国庫補助金や市の一般財源から成る処分場整備費の中に含められている。市議会が可決されれば、来月に民間業者を選び、6月ごろに処理を開始。新年度内に終える予定という。現

近隣住民ら現地視察  
佐伯区  
広島市が佐伯区湯来町で建設中の一般廃棄物の恵下埋立処分場の敷地からダイオキシン類を含む大量の廃タイヤの燃え殻が見つかった問題で、市民団体の代表者ら24人が6日、現地を視察した。約20人が訪れ、市の担当者から現状や処理方法の説明を受けた。高濃度のダイオキシン類が検出された場所の調査員が同行。「すぐに情報を提供しなかったのは住民の不信感に強い。住民や技術者の意見を聞ける第三者の委員会や検討会を設けるべきだ」と話した。市の調査では、燃え殻は推計で約5600トン。うち約4千トンは産業廃棄物を扱う県の出島処分場(南区)へ

9年) 1月28日 (土曜日) 16版 社会 (32)

**タイヤ燃え殻5600トン確認**  
処理に本年度2億円  
広島市処分場予定地 恵下埋立処分場  
不燃ごみの一般廃棄物を処分するため、広島市が佐伯区湯来町で進める恵下埋立処分場の建設現場で、推計約5600トンの廃タイヤの燃え殻が見つかった。市は6日、処理費が約6億円に膨らむと明らかにした。本年度予算から約2億円を削ぐのに加え、同日、民間施設で無償化して処分する委託費として約4億円を見込んだ。費用の財源は、市債発行収入を中心に国庫補助金や市の一般財源から成る処分場整備費の中に含められている。市議会が可決されれば、来月に民間業者を選び、6月ごろに処理を開始。新年度内に終える予定という。現

場での作業を今月内にも始め、作業所や保管場所などを造り、燃え殻の掘削と袋詰めを進める。市は燃え殻が見つかった事実に関し、すでに処分場周辺の町内会の役員を遣って住民に説明したという。(渡辺裕明)